とかち新聞
主筆　松山明
（発行所）北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話⑤2551番
毎旬5の日発行　1カ月300円　1カ年前納の場合　8,000円

町長と町議会との関係

町長と町議会は車の両輪ともいわれ、お互いに町民から直接に選挙されて町行政に責任をもつ以上は、そこに町長派や反町長派などはない筈ですが、そこは生臭い政治集団ともなればそうキレイごとにはいかないようで、そこには表もあれば裏もある町長と町議会との関係を探ってみれば―。

本別

名にしおう〃政争の町〃といわれながらも、前回の町長選では水元孝夫氏が無競争三選という町制施行いらいの新記録を打ち樹てたことによって〃平和の町〃に生れ変ったのかといえば、そうでもないようです。

水元氏は勝義同党の関係から中川一郎本別後援会長の立場にあったので一応保守派に属するものの、初の町長選では相手はレッキとした自民党本別支部長だった岡崎克躍氏とあっては地区労、農民同盟、社会党などの革新票が自民党中川派とくんで水元体制を支えてきた形です。

これに対して自民党支部では二回にわたって岡崎氏を立てて僅差で敗れたことがシコリとなって反水元派を形成していますが、議会人事をめぐって水元派へクラ替えする議員もいれば、本別製材工場問題にからんで逆に反水元派に転向する議員もおり、本別らしい議会勢力の流動ぶりをみせてもいます。

定例会での一般質問がもっともすくないのは、住民の町長の行政報告が親切丁寧であることで、当面の重要問題はもちろん、各課係の革新施策状況から国や道から町に関する事項などまでくわしく報告して、町行政の現状を常に全議員がわかるようにつとめており、質問があっても町長の答弁ではほとんど再質問のないことで、それだけ町長自体が町行政全般について細部に至るまで把握しているということです。

しかしその反面、議会の主要人事は町長のリモートコントロールによるともいわれています。

陸別

はじめから無競争での二選目の杉田雅武氏は、町長選のシコリもなく政争の渦中にまき込まれることはなかったものの、就任早々から道[illegible]にともなう[illegible]の誘致、みどりの国の建設、医師不在から診療所への移行新築、過疎対策のための振興公社の設立、中学校の統合問題などなど―議会内外からの厳しい〃攻勢〃にさらされながら〃ボツとガマンの子〃といった形で着々と実績をあげてきました。

市街の中心地のスポーツセンター、農協センター、老人憩いの家、国保診療所にとりかこまれた空地に「一緑と太陽の広場」の建設にあたっては、樹木のない公園は公園らしくないという議会側の強い要請に素直に応えてこれを設けたために小公園的な装いをもった住民いこいの場になったあたりは〃車の両輪〃の役割を果したともいえます。

町長の行政報告は定例会であろうと臨時会であろうと、前議会から今議会に至るまでの町長の日報的に報告するのが習慣になっており、どんな軽易な議案でも丁寧に審議するのが特長の議会ですが、そう意地悪な質疑があるわけではなく、一般質問となればいつも八名から十名程度が質問に立つので、答弁時間をふくめて三十分に制限していてそれで時間に間に合っているようですが、なかにはチョッと役場へ電話をかければわかりそうなことが一般質問として出てくることもあります。

十八名の定員のところへ地区労系の革新議員が七名もいるのに、これがテンデンバラバラでまとまりがなく、地区労では議員に干渉はできず困っているもようです。

足寄

議会での質疑、質問については「同一議員につき同一議題について三回をこえることができない。ただし、特に議長の許可を得たときはこの限りでない」となっていますが、発言力の強い議員には大義議長もついつい押され気味となって「ただし」書きの適用となって一人の議員に半日も引きずられる場面ともなってきたので、議会運営委員会では議事の能率化をはかるために時間制限をすることになり「一人二時間以内とし、質問の発言全文をあらかじめ提出することにしました。」

これは定例会毎に「議会だより」を発行しているので編集に便利なことと、理事者側に答弁の用意をさせるためでもあったのですが、ところが能率化の方はサッパリで、決めた上限の二時間いっぱいをフルに使う議員がふえてきて困って、質問が長くかかるようになったとです。

というのは、二時間といえば国会における予算委員会での各政党代表の質問に対する一問一答のようなものになるので、質問内容がこまかくなって町長や助役や課長でもその場で即答のできないことにおよんで資料がそろうまでは議事のストップはしばしばとなります。

発言力の強い四、五名の反町長派議員に引っかきまわされているような格好で絶対多数の町長支持派議員はゲーツと論議のタネがつきるのを待っているようなもので、そういう状況からか、小林町長の行政報告といえば事務的な程度にとどめているようで、本別や陸別のようにくわしくやっていたのでは、なにか論議のタネはないかと待ち構えている面々のエサにされるだけという配慮かもしれません。

町民の福祉と町の発展のためにどうあるべきかという論議よりも、行政上になにかミスはないかと目を皿にして議会に臨み、なにかあったらトコトン追及するのが目的で議席をもったのではないかと疑われるような議員もおり、そうしたカルチ型も必要だとしても、理事者側においても悪意のないささいなミスにでも執ように喰いさがり、無抵抗の理事者側に向って口を極めて言いたい放題でのゝしるあたり、その議員が自分の家庭でそんな口をきいたら家族がだまっていないだろうかというほどの代物ですが、ほかの二十名近い議員はこれをただ傍観しているところにも問題があろうというものです。

それでなくても慎重型の小林町長にすればウッカリ答弁もとられないように慎重と防衛的になれば、議長追も議会ともなればウンザリするような、そんな水良い執行機関と議決機関との関係をお互いに改善しなければと痛感させられます。

ニュースを斬る

日本の主権は―

◆…おとなりの大韓民国には戦前から日本が大変迷惑をかけた国ですが、それはそれとして、いまの韓国は戦前の日本と同じような反共軍事警察国家になっていて、独裁者の朴大統領が自分の政敵であって国民的人気のある金大中氏を、滞在中の日本のホテルから韓国情報部の手で、駐日大使館を使って強制的につれ出して、深夜ひそかに大阪あたりに用意してあった船に乗せられて韓国へら致された、いわゆる四年前の金大中事件。

◆…日本人であろうと外国人であろうと日本を出入国する場合は日本政府の許可がいるのに、こうした韓国の国家権力による謀略事件は日本の主権が侵害された事件なのです。

◆…日韓友好はそれとして、国の主権を侵害されたことは別問題として韓国に厳重に抗議して、日本で病気治療をしたいという金大中氏をつれ戻して主権を回復しようという意地が自民党政府にはないとして、宇都宮徳馬代議士は自民党を脱党したほどです。

◆…その金氏は韓国の裁判にかけられて刑務所に入っていますが、病中なのでもし獄死すれば日本政府の責任といわざるを得ません。

◆…ところが目下アメリカの国会で韓国の元情報部長が金大中事件の真相を証言し、岸元首相、福田現首相から前国会などの親韓国派議員が韓国からワイロをもらっていたと発表していますが、ハテ、サテ―。

暑中お見舞申しあげます

陸別町農業協同組合
組合長　秋山実
専務理事　松台国雄
代表監事　川初清一
参事　千場堅市

本別町農業協同組合
組合長　牧田庄二
副組合長　方川新一
代表監事　佐久間正元
参事　森武男

本別町開拓農業協同組合
組合長　渡辺一郎
代表監事　笹森留舒
参事　矢吹正義

陸別町農業共済組合
組合長　秋山実
副組合長　村松武範
代表監事　川初清一
主任　金子正美

本別町農業共済組合
組合長　高木章
副組合長　宮沢三郎
代表監事　加藤尹雄
参事　矢野幸雄

本別町森林組合
組合長　夏川当
副組合長　小川治一
代表監事　東条正二

本別町土地改良区
理事長　水元孝夫
副理事長　藤田高志
代表監事　紘野竹市
参事　高橋胞吉

足寄町観光協会
会長　新沼芳雄
副会長　豊田春男
同　両角章
理事長　柴田栄一
事務局長　松崎稔

足寄町衛生組合
組合長　三宅勝義
副組合長　桑田栄
同　庄司博
事務局長　杉本太

足寄町防犯協会
会長　岡見進
副会長　竹田卓也
同　秋葉昇
同　後藤愛一
事務局長　杉本太

足寄町消防団
第一分団後援会
会長　諸角章
副会長　野村正夫
同　木村幸三

北海道銀行
足寄支店
支店長　高木富一
同代理　後藤喜久夫
同　木村晃

グリーンパーク
足寄高原観光株式会社
取締役社長　五十里信雄
足寄町里見ガ丘公園　T　五―三一七五

有限会社　加藤木材店
代表取締役　加藤満
足寄町南六区　T　五―二二八二

足寄養魚センターやまべ苑
足寄町西糸　T（有線）三〇五一
螺平養鱒池　T　螺平四局二一〇八

足寄トラック運送事業協同組合
理事長　遠藤悠一　　専務理事　井上忠
星崎運輸（株）　代T　五―二一三五
足寄貨物自動車（株）　T　五―二二二七
（株）総安堂運送　T　五―四三三三・二一三三
（有）岸上運輸　T　五―二一〇八
（有）日東林業運送　T　五―二二七七
（事務局は総安堂運送内）

足寄製材協同組合
理事長　日景健治
理事　畑中タカミ
同　五川節子
同　羽磨欣一
同　岡崎薫
監事　加藤碩
同　村上忠雄
参事　工藤昭衛
林業会館内　T　⑤二〇〇六